

地域の中で、①高齢者、②障害者、③自死遺族、④犯罪をおかしたことがある方などの問題をかかえ、貧困に陥っている、虐待がある、孤立しているなどの世帯・個人に適切な支援ができないケースが多くあります。このようなケースに対して、どう対応していけばよいのだろう、という問題意識のもとに卒業生11名が集まり、担当の中里 仁先生とともに話し合いました。

非常に大きな難しい問題のため、また、2時間という短い時間のため、結論は出ませんでした。卒業生の職場の取り組みなどで下記のようなご報告をいただきました。

- 1) 東京都では「シルバー交番事業」といって、地域の高齢者の「見守り・相談」事業が行われています。地域包括支援センターではないので、ケアプランなどは立てませんが、相談窓口として、また、孤独死などを防ぐ見守りとして、行っています。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kourei/sumaipt/silver.html>

- 2) 生活保護世帯の増加で福祉事務所のケースワーカーの手がまわらない現状のため、埼玉県からの委託で埼玉県社会福祉士会で「生活保護自立支援事業」を請け負っています。ケースワーカーに代わって、住まいさがし、職の相談から、訪問などをしてあらゆる相談にのります。県からの1年更新の受託事業ではあるが、現在のところ継続して実施されています。

<http://saitama1717csw.jp/index.php>

- 3) 山形県庄内地域で活動している「NPO法人あらた」では、高齢者、知的・精神障害者、犯罪青少年はじめ、地域で暮らすあらゆる方のために必要な事業をおこなおうとしています。グループホーム、デイサービスなど介護保険事業、自立支援事業で主たる収入を得ていますが、お買いものサービス、マンションをつくるなど住まいの提供など、さまざまな試みをしています。「介護職員初任者研修(通信)」なども行っています。

<http://www.npo-arata.com/>

- 4) 刑務所を出所する方々で、高齢・障害などのため福祉的支援が必要な方に対し、必要な支援をつなげる「地域生活定着支援センター」(全国47都道府県に各1箇所ずつ設置)の職員として、刑務所にいる方や退所者と面談し、必要な資源につなげる仕事をしています。

<http://zenteikyo.org/>

- 5) 宮城県東松島市では、津波被災のため、「地域」がこわれてしまっています。また、仮設住宅のなかで新たなコミュニティができて「お金が出た・出ない」でもめたりします。地域の再生、雇用の問題など問題は山積しています。
- 6) ケアマネなどをしており地域づくりを試みようと思うが、なかなか地域はまとまらない、面倒臭くなるという思いを持ってしまう。地域に溶け込もうとする努力

も大変です。しかし、何らかの努力をしていきたい、という思いはあります。

→担当の中里先生から 今後、地域の廃校利用などを試みるのがよいのかもしれませんが。自分がいま持っている資格（たとえば保育士）とか、自分のしごとに関係するもの（たとえば旅館）などで少しずつ努力していくのはどうでしょうか。

- 8) 指定介護老人福祉施設では、今後「要介護3以上」でないと施設に入所できない政策が発表されています。

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130907/k10014366551000.html>

国の支援以上の支援を行き届かせようとする、自治体の財源でおこなうか、「法人自主事業」として他のところで稼いだお金をもとに必要なことを行っていくかの努力が必要になります。できることから少しずつやっていくしかないです。

- 9) 高齢者施設では、利用者が骨折などをすると家族から賠償請求が来るケースが増えています。そのため、入所時の「重要事項説明書」には、容体が急変した時に家族に連絡がつかないケースでどうするかなど、事細かに規定してあるものが関東地方を中心に広まってきていること、家族・職員の「性善説」を基本に運営されてきた福祉が変わってきていることが報告されました。

- 10) 大学の近くでは、「ひなたぼっこ」<http://www.clc-japan.com/hinatabokko/> などが地域の交流をめざす施設として開設されていること、その運営主体の「clc 全国コミュニティライフサポートセンター」(<http://www.clc-japan.com/>) の福祉に関する出版物などが紹介されました。

その他にも、待っている相談に来ない方が多いのでアウトリーチの必要性、介護予防の市町村委託で方向性が不明になど、さまざまなご意見・問題提起や通信教育部学生として学んだことをいまどのようにいかしているかなどのコメントをいただきました。必要としている方に少しでも福祉的支援が届くように実践していきたいという思いを新たにした分科会でした。